

令和3年度上半期生活支援体制整備事業の実績報告

1 生活支援コーディネーターの活動実績

- 市及び各在宅介護・地域包括支援センターに配置した介護予防活動を行う地域の通いの場であるいきいきサロンの立上げ支援を中心に、地域の自主的な支え合いの活動の支援に取り組んでいる。
- いきいきサロン新型コロナウイルス感染症対策ガイドを7月1日及び12月1日に改訂し、活動における感染症対策を含む、活動の運営支援を行った。
- 上半期では、地域の社会資源一覧の情報の更新を行った。
- 生活支援コーディネーターの活動内容ごとの実施件数については、次表のとおり。

所属	実態把握	立上支援	運営支援	啓発	個別支援	2層支援 (1層のみ)
ゆとりえ	35	2	20	24	1	—
吉祥寺本町	16	3	20	27	5	—
高齢者総合センター	12	2	25	6	2	—
吉祥寺ナーシングホーム	11	1	27	7	4	—
桜堤ケアハウス	0	5	34	13	2	—
武蔵野赤十字	29	2	41	32	2	—
高齢者支援課	7	3	29	3	0	7
合計	110	18	196	112	16	7

- *実態把握…活動状況の確認ができていない地域の団体や主に生活支援コーディネーター以外が支援している団体（市民社会福祉協議会が支援を行っている団体（地区社協、テンミリオンハウス等））を訪問し、実態の把握を行った件数
- *立上支援…いきいきサロン、多様な自主活動の立上げの支援に関わった件数
- *運営支援…いきいきサロン、自主活動団体、集いの場の運営に関する支援を行った件数
- *啓発…複数人に対して情報提供、啓発等を行った件数
- *個別支援…地域住民とサービス、社会資源のマッチングを行った件数
- *2層支援…第2層生活支援コーディネーターへ情報提供、助言等の支援を行った件数

2 協議体

- 市全域レベル（第1層）の協議体（地域包括ケア推進協議会）1回
- 日常生活圏域レベル（第2層）の協議体相当 16回

3 課題及び今後の方向性

- (i) 地域の自主的な活動の立上げ及び継続の支援について
 - 新型コロナウイルス感染症対策のため、これまで地域活動を行っていた場所の使用が

休止され、活動場所の確保がより困難となっている。一時的に市施設の利用も可能となっているが、活動場所となりそうな場所の情報収集・提供等の支援を引き続き行う必要がある。

○地域の自主的な活動には、地域の住民だけでなく、地域の事業者の協力も必要である。商店会との連携のため、市産業振興課と情報交換を行った。今後は商店会への働きかけを実施していく。

○地域の自主的活動の後継者不足が懸念されている。基幹型及び在宅介護・地域包括支援センターで活動の担い手の養成のための取組を実施していく必要がある。

(2) フレイル予防の推進

○新型コロナウイルス感染症対策のため、休止されていた高齢者向けの各種講座や活動が再開されているが、感染症リスクを恐れ、参加を躊躇する高齢者が見受けられる。より感染リスクの少ない、屋外での地域の活動の支援も実施していく。

○介護予防、フレイル予防を継続的に行っていくためには、介護予防・フレイル予防の必要性や効果等意識の向上とともに、活動内容や活動場所の普及啓発が必要である。関係各課・関係機関との連携を図り、インターネットの活用など、より効果的な普及啓発を行う。